

令和7年度 北海道中学校バドミントン大会 大会全般の注意

Ⅰ 全般的事項

- ① 入場は大会関係者及び引率者、選手を優先し、応援及び一般の方は選手の入場が終わってから案内する。
- ② 荷物は各地区に割り当てられている場所に置くこと。応援のための席の移動は制限しない。
- ③ フラッシュやライトを点灯させての撮影および競技フロア内での撮影は禁止とする。また、中学生の大会では、生徒保護の観点から試合内容をYouTubeを含むSNSへの掲載やライブ配信を禁止する。
- ④ 別紙の「知っておきたいバドミントンのルールやマナー」「公認審判員行動規範について」等を熟読し、大会に臨むこと。
- ⑤ 熱中症対策や判断は、北海道中体連が定める「北海道中学校体育大会熱中症防止対策」、日本スポーツ協会の「熱中症予防ガイドブック」に則って行う。熱中症の疑いがあり特別な対応（涼しい部屋での休憩、救急搬送など）が必要な場合は、速やかに大会本部に申し出ること。
- ⑥ 今大会は、熱中症対策を含めて、選手の安全や生命を最優先にして運営する。そのためには、レフェリーおよび大会事務局等で協議し、慣習やルールを超えた判断をする場合がある。その際は、観戦者を含む大会参加者全員に御協力をお願いする。
- ⑦ 熱中症特別警戒アラートが発出され大会が中止あるいは競技進行が困難となった場合は、北海道中学校体育連盟が定める基準に則って代表選手、チームを選出する。



北海道中学校体育大会
熱中症防止対策



日本スポーツ協会熱中症予防ガイドブック

2 試合に関する事項

(1) 全般的事項

- ① 審判団は各試合主審1人、線審2人、得点係1人を配置する。サービスジャッジは準決勝より配置する。なお、得点係は1人とする。
- ② 原則として敗者監督（地域クラブ活動指導者、外部指導者含む）審判制とする。また、敗者選手は線審を行うこと（単は1名、複は2名）。なお、得点係と単の場合のもう1名の線審は主管地区協会が担当する。
- ③ 試合が連続する場合は、前の試合終了後、10分間を確保して次の試合のコールをする。
- ④ 団体戦及び個人戦ともに、トーナメントで上に記載されている方が主審の左側に入場すること。
- ⑤ 表彰、入退場、試合の挨拶の際は、マナーとしてウェア（上衣）の裾は下衣の中に入れること。
- ⑥ マナーとして、選手は対戦相手及び審判と握手をすること。
- ⑦ ハードタイプのクーラーボックスの競技エリア内への持ち込みは禁止とする。氷のうは、ソフトタイプの保冷バッグに入れ、コーチ席で保管すること。
- ⑧ 選手に対してうちわ、ハンディファン、氷のうを使用することは、インターバル時のみ認める。コーチ席に座っている者が使用することは、試合に影響がない範囲であればラリー中であっても認める。ただし、主審や大会本部から見てラリーに影響を及ぼしていると判断した場合は、大会レフェリーと協議をし、使用を禁止する場合がある。また、叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。
- ⑨ 今大会はコートサイドにカゴを用意しない。タオル、スクイズボトル（水筒）、滑り止めなどはまとめてバッグに入れ、コートサイド（主審のそば）に置くこと。バッグのファスナーを締めるなど、整理整頓を心がけること。また、その他の物はコーチ席で保管すること。なお、交換用ラケット（ケースから出しておく）はバッグの上に出しておくことを認める。

- ⑩ コーチ席に入る監督、マネージャー、外部指導者等は、マッチにふさわしい服装で臨むこと。公認審判員規程第5条第12項(8)によるものとする。なお、Tシャツについては、チーム名が明記されたチームTシャツ(ロングTシャツを含む)のみ認めることとする。その他のTシャツ(ロングTシャツを含む)を着用は認めない。その適否の判断は、大会レフェリーによるものとする。
- ⑪ 試合中のけが等の応急処置は、レフェリーの確認のもと救護スタッフが行う。その後の処置は各自の責任とする。なお、公認審判員規程の改訂により、インターバルを除き、マッチ中、医療役員による1度だけスプレーを使用した処置は認められない。
- ⑫ 応援は品位を保って行うこと。鳴り物の使用、相手を煽る、囃し立てるような応援は認めない。

(2) 団体戦

- ① 各コートのコーチ席に入れるのは、登録している(男女別)監督、マネージャー、外部指導者、団体戦に登録されている選手のいずれか2名以内とし、必ずIDを付けることとする。
- ② 団体戦でベンチに座ることができるのは、登録している(男女別)監督、マネージャー、外部指導者、選手とする。チェンジエンスの際に、ベンチの移動は認めない。
- ③ オーダー交換は、対戦相手が決まり次第、放送にて案内する。定刻(指定のあった時刻)までにオーダー用紙の提出がないときは、棄権と見なす場合がある。
- ④ マッチ前練習は、団体戦の挨拶が終了後、トーナメントで上に記載されているチームから主審の合図で3分間行うこととする。すべての試合において両チームとも必ず練習を行うものとする。なお、2複1単のマッチごとの練習は行わない。
- ⑤ 2コートを同時に使用しての並行試合を行う。試合の勝敗は複1・単・複2のうち、いずれか2マッチを先取したチームの勝ちとする。進行の関係で3コート同時に試合を行うこともある。この場合は監督に確認の上で実施する。また、どちらかのチームが初戦の場合は第2複まで行い、それ以降は(2マッチ先取)後、打ち切る。

(3) 個人戦

- ① コーチ席に入れるのは、男女別を問わず、その学校(チーム)で登録している監督、マネージャー、外部指導者または団体登録選手のうち2名以内とし、必ずIDを付ける。
- ② 個人戦のマッチ前練習は、どちらかが初回戦のみ2分間行う。挨拶が終了後、主審が審判台に着席し、合図があってから開始する。(本来ならば練習時間の中に主審のコールおよび「ラブオールプレー」が含まれるが、今大会においては2分間を確保する。練習終了後、選手は速やかに試合を開始できるようにコートに戻ることに)単の場合は対戦選手と、複はパートナー同士での練習とする。練習球は各自で用意すること。